

思い出の教育誌〔昭和初期〕

(二)

高崎 伊平

二、子どもの生活

昭和四年（一九二九）私どもが入学した頃は、昭和二年（一九二七）金融恐慌が起り、同四年には、教員の俸給支払が延期されたり、減俸、減首などが各地に起りました。いわゆる不景気の波が押し寄せて来た時代でした。教育界では、ベスタロッチの教育学が盛んで、第二部国語研究部の昭和四年四月発行の児童文集には「ベスタロッチ——言葉」が掲載されています。

□ □ □
神は人間の最も近き関係である。

□ □ □
天と地とは美しい、されど人間の魂が外部に渦巻く塵埃を立超えて、自ら向上する時天と地よりも更に美し

い。

□ □ □
生活が教育と学校の基礎である様に、信仰と愛と自由と喜びは、生活自らの基礎である。

□ □ □
子供は自ら考え又行う前、すでに愛し且信じている。家庭生活の影響が、人の総ての思惟と行為が前提している。道徳的諸力の内部的本性を刺激し又高めるのである。

□ □ □
又次の児童詩が扉にかかげられていました。

くれがた

□ □ □
かれたえだのはしっこに

ふくらんだ、すずめが
ないてたよ

くれかかる入日を

せにあびて

チチュッチー

おせどの方に、かけてった

このことから、当時の教育思潮の一端を覗き見る事が出来ると思います。

昭和五年（一九三〇）には、米価、農作物などが大暴落し、農村の危機が深刻化してきた上、翌々年には、彌生系の大暴落が始まりました。

こうした中での子どもの生活について、福生尋常高等小学校昭和四年入学生、昭士会発行の記念誌「六十路」
 子どもの頃の生活から、子どもの生活を拾ってみます。

1、ハナ、ハト、マメ、マス

今から五十五年前（現在六十一年前）福生尋常高等小学校に入学した私たちの、最初に手にした小学国語読本（第三期国定教科書）は「ハナ、ハト、マメ、マス、ミノカサ、カラカサ……」から始まっていました。（大正七年改訂）

ミノカサは、蓑と笠、カラカサは唐風傘、当時蓑笠は農家に、唐傘は一般的に多く使われ、私たちも雨の日の竹と油紙の唐傘をかぶって通学しました。

「朝日がさした隣の藪に、今日も来て鳴く鶯よ」の歌がびったり合う福生村でもありました。

昭和六年（一九三一）九月十八日、私たち小学校三年の時満州事変が始まりました。世の中は次第に戦時色が

濃くなり、廟行鎮の敵の陣の「爆弾三勇士」、轟く砲音の「広瀬中佐」、煙は見えずの「勇敢なる水兵」などの歌が持てはやされるようになりました。

2、生活感覚について

※昭士会（同級会）の人たちのアンケートより以下同

| 項目 | ハイ | イイ | エ |
|----------------------|----|----|----|
| ⑦子供の頃の生活は、苦しかった。 | 一三 | 二三 | 二二 |
| ①学校を休んで家の手伝いをしたことがある | 一五 | 二二 | 二二 |
| ⑤学校へ行く時洋服を着ていった。 | 三 | 三一 | 二二 |
| 洋服と和服と両方着た。 | 二 | 三五 | 二二 |
| ⑥ランドセルを使用していた。 | 一 | 三 | 二 |
| ④弁当を持って学校へ行った。 | 一 | 三 | 二 |
| ②時々持っていた。（雪の日） | 三 | 二 | 二 |

3、学校から帰ってからの手伝い

| 項目 | 数 | 項目 | 数 |
|--------|----|---------|---|
| ①水くみ | 一一 | ⑤そうじ | 四 |
| ②子守 | 一〇 | ⑥お使い | 四 |
| ③畑の手伝い | 九 | ⑦桑つみ | 四 |
| ④お勝手仕事 | 六 | ⑧たきぎひろい | 三 |

4、食生活について

| | | | | | | | | | |
|--|---------------|---|----------------------------------|--|----------------------------|--------------------------|---------------------------------|-------------|-------------|
| ① さつまいも ② じゃがいも ③ あめ玉 ④ たらしもち等 ⑤ とうもろこし ⑥ さつまだんご ⑦ トマト、 キヌウリ等 | 副食等 (含おやつ) | ⑧ 八ツ頭 ⑨ お好み焼き ⑩ おだんご ⑪ ドドメ ⑫ せんべい ⑬ 栗 キャラメル、梨、 アンパン、ドーナツ | 一〇 六 六 六 四 四 三 | ⑥ 粟めし ⑦ いもめし ⑧ 粟めし ⑨ 大根めし ⑩ ひきわり | 三〇 二七 二四 一八 一六 | ① ふろたき ⑩ 茶つみ ⑪ 草かり | ⑫ ひきわりひき ⑬ 砂利採集 ⑭ その他の手伝い | 一 二 三 | 二 一 一 |
| 各一 | | | 各一 | 三 四 六 六 六 | 三 四 六 六 六 | | | | |

5、子どもの頃のあかり

| | | | | | | | |
|---|----|------------------------|-----------------------|-----------------------|-------------|--------------------------------------|--------|
| ① ランプ ② かい中電灯 ③ チョウチン ④ 電灯 ⑤ カンテラ | 項目 | ① 下駄 ② はかま ③ ゴム靴 | 数 | ④ 革靴 ⑤ 洋服 ⑥ ぼうし | 数 | ⑦ ぞうり ⑧ わらじ ⑨ 男の殆んどが かすりの着物 | 数 |
| | | | 二 一 一 一 一 | | 七 七 八 | | 二 六 |

6、子どもの頃のマスコミ

| | | | |
|--|----|--|--------------------------------------|
| ① ラジオ ② 紙芝居 ③ 新聞 ④ げん灯 ⑤ 無声映画 ⑥ 号外 ⑦ 本 | 項目 | ① ラジオ ② 紙芝居 ③ 新聞 ④ げん灯 ⑤ 無声映画 ⑥ 号外 ⑦ 本 | 数 |
| | | | 二 一 一 八 九 八 七 二 |

7、子どもの頃の着るものなど(含はきもの)

| | | | | | |
|------------------------|----|-----------------------|-------------|--------------------------------------|-------------|
| ① 下駄 ② はかま ③ ゴム靴 | 項目 | ④ 革靴 ⑤ 洋服 ⑥ ぼうし | 数 | ⑦ ぞうり ⑧ わらじ ⑨ 男の殆んどが かすりの着物 | 数 |
| | | | 一 四 九 | | 七 七 八 |
| | | | 各一 | | 二 六 |

8、学校での遊び

学校での遊びは、①鉄棒、お手玉、ごむとび、ドッチボールが上位を占め②かけっこ、ボールあて、雪合戦、おしくらまんじゅう、サッカー、石けり陣取りなどがそれに続きました。おはじき、馬とび、花さし遊び、きしやごなどもよく遊んだ遊びの仲間でした。

9、家に帰ってからの遊び

家に帰ってからの遊びでは、第一位は、かくれんぼ、多摩川での水泳や魚とり、兵隊ごっこも男子の遊びとして上位を占めていました。第二位は、夏祭りのまん灯つくり、鬼ごっこ、紙芝居、ゴロゴロころがし、竹馬、石けり、トロッコ遊び、ドドメつき、栗ひろいなどでした。第三位は、ごむとび、お年玉、すごろく、みかんつり、花さし遊び、イナゴとり、キノコとり、ローラースケート、虫とり、ホタルとり、バッチかけ（小鳥とり）、メンチ、すもう、せいの神などでした。

これらの遊びも、殆んどは家の手伝いの余暇を利用した遊びでした。冬は、農閑期なので遊ぶ時間が多く、たこあげなどさかんにやりました。

10、子どもの一言

これらのアンケートの中から、子どもの一言をひろってみます。

①着物でゴム靴、いつも着物の袖が光っていた。

②弁当を学校の小使さんのところの保温棚に乗せて、炭火で熱くして、弁当箱に飯がくっついていて、食べたがうまかった。

③夏は、馬のえさ草刈りに、冬は今の横田基地のある雑木林にたき木取りに行った。毎日休む日はなかった。

④麦蒔き、麦踏み、麦刈り、桑つみ、蚕の尻とり、ひきり拾い、その他一切。芋掘り、陸稲蒔き、陸稲刈り、草取り、穂打ち、脱穀等殆んど農作業をやりました。

⑤当時の主食と言えば麦めし、ちよっとおごって山崎製麵の生うどん、お袋の味、煮込みうどん。その頃の味は今でも思い出します。最近は少し口が肥えすぎの感じです。

⑥まだ、ランブ生活の家もあったね。早く洋服が着てみたいなあと思った。

⑦八月一日のお祭りは、ほんとうに楽しみだった。

⑧私達が上級生の頃鉄棒が非常に盛んになりました。その頃着物を短く着るのがはやっていて、休み時間、私達女の子は、その着物のままで、鉄棒にぶら下り、足かけ上りや逆上りをしたものです。

今思い出して、はずかしく頬を赤くそめています。

⑨家が農家で忙しく、夏休み中校庭でやるラジオ体操にも余り参加したことはなかったが、炎暑の中二、三時間多摩川へ水浴びや魚取りに行けたのが嬉しかった。大急ぎで昼食を済ませ、越中フンドシ一丁で多摩川の川原へとんで行き、自分で作った釣り竿で按摩釣りやペチャンコ釣りもしたが、当時は馬鹿っバヤがよく釣れた。

川を泳いで渡り、折立下で木苺を取って食い、蝗をいっぱい捕ってきたこともあった。

11、農繁期短縮・休業

記録によりますと、明治三十六年（一九〇三）一定休業日の項に、農蚕休業、自五月廿八日至六月十日とあります。その翌年の同項には、養蚕休業二週間・自五月廿八日至六月十日と記録され、昭和二年の記録まで続き、その後記録されておりません。農繁休業、養蚕休業の名称が混在していますが、いづれも二週間、五月二十八日から六月十日までとなっています。

昭和十四年の記録（福生第二小学校九十周年誌）として、農繁期休業・授業短縮について、次のように記されています。

期間昭和十四年六月一日～六月十五日
対象尋常五年以上は休業、尋常四年以下は短縮

この頃になりますと勤勞奉仕と農業生産力の維持増進が図られたものと思われまます。

いづれにしても、子供達の労働力が充たされたことがよくわかります。このことは「子どもの生活」の大きな部分として取り上げられます。

12、当時の新聞記事（東京日日新聞府下版・三多摩読売）

「見出しにみる子どもの生活」

① 児童の就学延期、めっきり増加。

府の調査に現れた三多摩地方の深刻な不況にともない耕地の売買が増加傾向を示し、その価格は好況時の二割～三割安に下落。この当時の売買価格は、反当り普通田で六百円程度であった。農家収入は、西多摩・南多摩の多摩川沿岸砂利採集地域での収入減が甚しかった。一般的にも二～三割の収入減となっていた。

② 夜間小学校の施設。小学児童の長期欠席、三多摩地方に多いらしい

（昭和五年七月六日 東京日日）

③ 小学児童の長期欠席、約一％の率

（昭和五年七月十日 東京日日）
三多摩小学校児童長期欠席が非常に多いので府学務課では、就学者数の全小学児童五一万六千八百八十人につ

き、最近における長期欠席者数を調査中であったが、その結果をみるに三ヶ月、六ヶ月、一年以上の欠席者を合して男、二千三百十七名、女二千九百三十八名、合計五千五十五名で約一〇%の率を示している。

西多摩郡の欠席者数
三ヶ月一―二四名、六ヶ月七―三名、一ヶ年以上六―二名、合計二四五九名。

(昭和五年七月二十日 東京日日)

④ 児童店員好評

(昭和五年七月二十九日 東京日日)

⑤ 欠食児童四〇名、八王字で愈々救済策なる。

(昭和七年六月一七日 東京日日)

⑥ 三多摩町村政は停止する

教員俸給の延期、半年が普通、戸数割は三、四年滞納

(昭和七年六月十六日 読売)

⑦ 斯しくして農村は更生する。青年に郷土愛を植付

貧農に耕地の均等を図れ、恩恵のない資金を仰ぐよりと、三多摩に力強い呼び

(昭和七年八月三十日 読売)

⑧ 中等学校よりも農村に補習学校

公民・農事の教育が最大急務 町村長会幹部談

(昭和七年八月三十日 読売)

⑨ 福生村でも託児所開かる
農家の子女のみ、四歳から七歳の九十名余、保母三名。

(昭和十年六月二日 読売)

これらの新聞記事は、三多摩地区の生活実態の一端を写し出しているものと思います。

13、教育標語とサクラ読本

昭和初期の教育標語に、次のような項目がありました。

① 思想善導 ② 体育の奨励 ③ 教化総動員 ④ 勤儉貯蓄

第四期国定教科書(サクラ読本)

サイタ、サイタ、サクラガ サイタ

コイ コイ シロコイ

ススメ ススメ ヘイタイ ススメ

オヒサマ アカイ アサヒ ガ アカイ

これは昭和八年(一九三三)四月から使われました。

三、学校手牒

学校手牒は、現在の通知票同様、学校での児童のようすを保護者に知らせるものです。昔も今も変わらないのは、あまり嬉しいものではなかったということでしょうか。

成績が上ったり優等の成績の人は、気分もいいでしょう。

表紙



うが成績が悪いとどうも沈みがちになってしまいます。

「成績表なんて誰が考えたのかなあ。こんなものなければいいのになあ。」とは、子ども心のほんとうの姿かも知れません。しかし、この学校手牒も教育史を語る上では、時代を反映する大切な資料の一つではないでしょうか。

教育政策や教育思潮までも忠実に写し出しているとも考えられるからです。そこで、この学校手牒を順を追って紹介することとします。

児童一人ひとりの目が、小学校生活の八年間をこの学校手牒に注ぎ万感の想を秘めてきたことだろうし、今再

び手にして、その目に写る感慨は、こもこもさまざま波みつくせないものがあるのではないのでしょうか。

自 戒

我は○○○○といふものである。

我が名を重んじ自ら慎まねばならぬ。

我は○○○○といふものゝ子である。

我が親我が祖先の名をあらはさなばならぬ。

我は福生尋常高等小学校の生徒である。

我が校の名譽を輝さねばならぬ。

我は福生村の村民である。

我が村の富とその勢を増さねばならぬ。

斯の如くにして 天皇陛下の下されし

勅語の御心に副ひ奉らねばならぬ。

校 訓

一、元氣よくあれ

剛 毅

一、力一杯働け

勤 勞

一、きまりを守れ

従 順

一、やたらに人にたよるな

自 營

校 歌

一、白銀姿いと高き、

富士はみ空に聳へたり、

朝

学びの庭の教子よ、
高きをあれにたぐへつゝ、
心をみがけいざともに

二、其の名もゆかし多摩川の、
清き流れのほとりなる、
学びの庭の教へ子は、
よどまぬ清き心もて、
学びの道にいそしめよ、

三、めぐみは広き武蔵野の、
限り知られぬそれのごと、
学びの園のなでしこよ、
めぐみの露に茂りつゝ、
日本を飾る花となれ、

児童一日の心得

- 一、笑って起きよ、起されるな、
- 一、床は自分であげよ、着物は正しく着よ、
- 一、先ず口をすゝぎて顔をきれいに洗へ、冷水で
からだを拭へ、
- 一、深呼吸をなせ、
- 一、正しく膳に向ひよくかみて静かに食べよ、

一、下調をなせ、暇あらば家の仕事を手伝へ、
一、出かける前に荷物を調べよ、手拭とはな紙を
忘れるな、

登校
の下
のとき

- 一、道草を食ふな、
- 一、往來の邪魔になるな、
- 一、知人にあはば礼をなせ、

教を
受ける
時

- 一、鈴が鳴れば速く集れ、口を閉ぢ前にならへ、
- 一、静かに席につき姿勢を正しくせよ、
- 一、一心に勉強に取りかかりよそごとを思ふな、
- 一、寸分も油断をするな常に先生を見て居よ、

遊
び
の
とき

- 一、言葉遣ひに気をつけはつきりと答へよ、
- 一、元氣よく運動せよ、とめられた遊をするな、
- 一、草木建物などをいためるな、
- 一、人の見て居ぬ所にてはことにきまりを守れ、
- 一、物のかしかり、やりとりなどをするな、

夜

- 一、きめられたおさらひはいわれなくてもせよ、
- 一、用終らば早く寝て早く起きよ、
- 一、暑くともはだかになるな、寒くとも布団をか
ぶるな、

手牒使用ニツイテ保護者ノ方ヘ

- 一、此ノ手牒ハ学校ヲ卒業スルマデ使ヒマス
- 一、毎月ノ出席状況各学期末ノ成績ハ其ノ都度通知シマ

ス

一、毎月四月ニ身体検査ヲシテ結果ヲ通知シマス異常ガ

アリマシタラ早クナホシテ下サイ

一、修業卒業ハ其ノ旨所定欄ニ記載シテ置キマス

一、記載シタ事項ヲ御覽ノ上所定欄ニ捺印シテ下サイ

西多摩郡福生尋常小学校

学校長受持教員……………略

児童氏名等の児童欄……………略

身体検査表

日本児童發育表及び出席調査表……………略

註1 評価段階では、甲乙丙丁戊が使われました。これは十

千の甲乙丙丁戊己庚辛壬癸から取られたものと思われま

す。実際は甲乙丙の三つのようでした。

註2 綴方は第二学年から、理科裁縫は第四学年から、農業

は高等科一年から始められました。

註3 唱歌・裁縫が加えられたのは、明治四〇年。手工が明

治四十三年から尋五以上の学年に取り入れられました。

註4 明治四十五年から、高等科に農業が加わりまし

註5 大正五年から、補習学校に撃剣・柔道が加えられまし

| 備 | 科高等 | | 科常 | | | | | | | 別 | 科 | 年 | 年 | 檢 | 事 | 項 | 發 | 育 | 祭 | 作 | 視力及屈折 | 眼 | 耳 | 齒 | 其 | 保 | | |
|---------------------------------|-----|---|----|----|----|----|----|----|---|---|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 年 | 月 | 年 | 月 | 年 | 月 | 年 | 月 | 年 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 月 | 年 |
| 一、身長、胸圍ハセンチメートル、體重ハキログラムヲ以テ單位トス | 二年 | 一 | 六年 | 五年 | 四年 | 三年 | 二年 | 一年 | 七 | 身 | 長 | 113.8 | 113.8 | 113.8 | 113.8 | 113.8 | 113.8 | 113.8 | 113.8 | 113.8 | 113.8 | 113.8 | 113.8 | 113.8 | 113.8 | 113.8 | 113.8 | 113.8 |
| | 一 | 三 | 十 | 十 | 九 | 八 | 七 | 六 | 五 | 重 | 28.5 | 28.5 | 28.5 | 28.5 | 28.5 | 28.5 | 28.5 | 28.5 | 28.5 | 28.5 | 28.5 | 28.5 | 28.5 | 28.5 | 28.5 | 28.5 | 28.5 | 28.5 |
| | 一 | 三 | 十 | 十 | 九 | 八 | 七 | 六 | 五 | 胸 | 65.2 | 65.2 | 65.2 | 65.2 | 65.2 | 65.2 | 65.2 | 65.2 | 65.2 | 65.2 | 65.2 | 65.2 | 65.2 | 65.2 | 65.2 | 65.2 | 65.2 | 65.2 |
| | 一 | 三 | 十 | 十 | 九 | 八 | 七 | 六 | 五 | 圍 | 74.0 | 74.0 | 74.0 | 74.0 | 74.0 | 74.0 | 74.0 | 74.0 | 74.0 | 74.0 | 74.0 | 74.0 | 74.0 | 74.0 | 74.0 | 74.0 | 74.0 | 74.0 |
| | 一 | 三 | 十 | 十 | 九 | 八 | 七 | 六 | 五 | 骨 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 |
| | 一 | 三 | 十 | 十 | 九 | 八 | 七 | 六 | 五 | 力 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 |

学業成績表

| 学業成績表 | | | | | | | | | | | | |
|-----------|-----------|---|---|-----------|---|---|-----------|---|---|-----------|---|---|
| 表 績 成 業 學 | | | | | | | | | | | | |
| 昭 和 五 年 | 昭 和 四 年 | | | 昭 和 三 年 | | | 昭 和 二 年 | | | 昭 和 一 年 | | |
| 年 學 | 年 學 | | | 年 學 | | | 年 學 | | | 年 學 | | |
| 第 三 科 常 務 | 第 二 科 常 務 | | | 第 一 科 常 務 | | | 第 二 科 常 務 | | | 第 一 科 常 務 | | |
| 第 三 學 期 | 第 二 學 期 | | | 第 一 學 期 | | | 第 二 學 期 | | | 第 一 學 期 | | |
| 甲 | 乙 | | | 丙 | | | 丁 | | | 戊 | | |
| 身 體 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 |
| 國 語 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 |
| 算 術 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 |
| 歴 史 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 |
| 地 理 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 |
| 圖 畫 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 |
| 唱 歌 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 |
| 體 操 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 |
| 裁 剪 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 |
| 工 作 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 |
| 通 約 者 印 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 |
| 備 考 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 | 甲 | 乙 | 丙 |

事歴欄

| | | |
|---------------|--------------------------|-----|
| 年月日 | 事 項 | 職 印 |
| 昭和五年 三月廿五日 | 尋常科第一学年ノ課程ヲ修業セシコ トヲ証ス | 職 印 |

以下略

最後が「本学年精勤」とか「本学年優等」とかの事項
が書き込まれました。

学校手牒を眺めて

1 身体検査表、栄養丙

身体検査表で目につくのは、概評、栄養共に丙の表
示であることです。昭和四年満六歳の時期に、やせた
貧弱な体であったことがわかります。

「馬鹿でも丈夫が結構、伶俐ならなお結構。」
と言った親達のことばに、心の奥底を視る想がします。

2 出席調査表、五年生から事故欠急増

子どもにとって農作業の手伝いが欠かせないことであった頃ですから、四年生頃から農家の労働力として、その一翼を担っていたこと。そして五年生からは急に事故欠が増えていることから完全に家族労働力として組み込まれていたことがわかります。前に子どもの生活で述べた通りこの出席調査表は語ってくれました。

農繁期休暇については、この時期なかったことも明らかになりました。(農家以外の子はうらやましかったです。)

3 学校成績表から

評価の甲は、亀のこうとか三味線。乙は、アヒル。丙は、へいたいさんなどと呼ばれました。

一年生を終って、学校手牒をいただくと、丁度叔父さんもいました。親達も叔父さんも「よくやった。えらかった。」とほめてくれました。叔父さんは桜の木で作った机をほうびにくれました。すごく嬉しかったことを今でも覚えていますし、六十年たってもそ

の机を大事にしています。

ご覧の通りアヒルの行列に等しかった学校手牒なんです。が、ほめられたことの嬉しさから、今は、ほめてやることの大切さがしみじみわかりました。

4 タンポポの根が一米

四年生の理科の授業の時でした。先生とシャベルを持って野道にタンポポの根を掘りにいきました。今という野外観察の授業です。

タンポポの根は深く、汗を流しながら交替して掘りました。はじめは近くを掘ったので掘ることが出来なくなりました。そこ、大きく掘りかえてやっと成功。なんと一米近くもありました。びっくりしましたね。

5 カエルに血が流れている

これも理科授業のこと。次の理科の時間にはカエルを取ってくるようにとの先生のお話でした。理科の時間になりました。先生の指図通りカエルを虫ピンではりつけ、解剖の実験をしました。心臓がピクピク動いています。顕微鏡でのぞくと血球が後から後から流れていました。みんな「わあ、すごい」の連発でした。

6 楽しかった行事

運動会・学芸会・遠足などは楽しかった行事として忘れられない行事でした。図画の写生では、玉川上水附近や柳山によく行きました。

7 暗誦の勉強

修身での教育勅語、国史で歴代天皇、読本での名文、算術での九九などの暗誦は、なかなか覚えられなくて、それは大へんでした。

学校手牒は、次から次といろいろ語ってくれます。嬉しかったこと、苦しかったこと、世の中のことなど、目を静かに閉じてじっくりと考えたいような気もしました。

おわりに

視点を「思い出の教育誌」としてあて、私の学んだ福生尋常高等小学校の平面図を、記憶をたどりながら書きました。

書いているうちに、あれこれと頭の中に記憶がよみがえってきました。誠に断片的でありました。

「史」を使わず「誌」としたことは、日誌風に断片的にしか書けないからでしたが、出来あがった平面図を眺

めていると、思い浮かぶことをありのままに綴ってみようと考えようになりました。

そのうち同級生などの顔が浮びましたので、昭士会発行の記念誌「六十路」をみますと、子どもの頃の生活が収録されています。そこで、子どもの生活を綴ることにしました。丁度その頃、私の学校手牒がみつかりました。家族みんなで笑いながら話しているうちに、学校手牒を綴ろうと考えこの構想が生まれました。

こんな風にして、出来上ったのが「思い出の教育誌」の小文です。資料については、手もとにあるもので裏付けました。舌足らずの処が多いと思いますがお許しいただいて何かとご指導の程お願いいたします。

(たかさき・いへい 福生市史現代調査員 加美平在住)

主な資料

福生尋常高等小学校一覧表

昭士会発行記念誌「六十路」

学校手牒(高崎伊平所有)

新聞記事コピー(松林歴史講座でいただく)